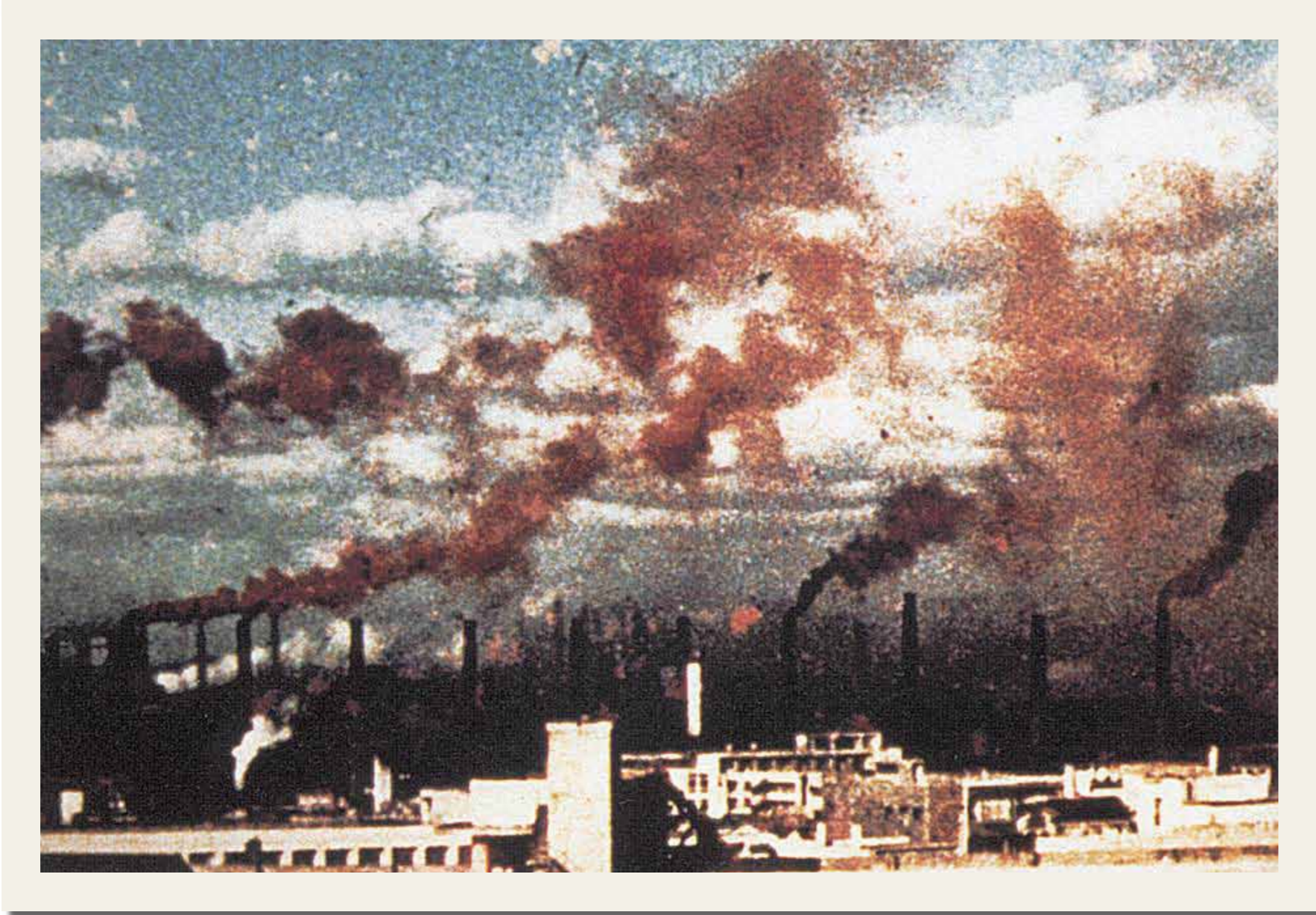




北九州市の青い空をとりもどそう！

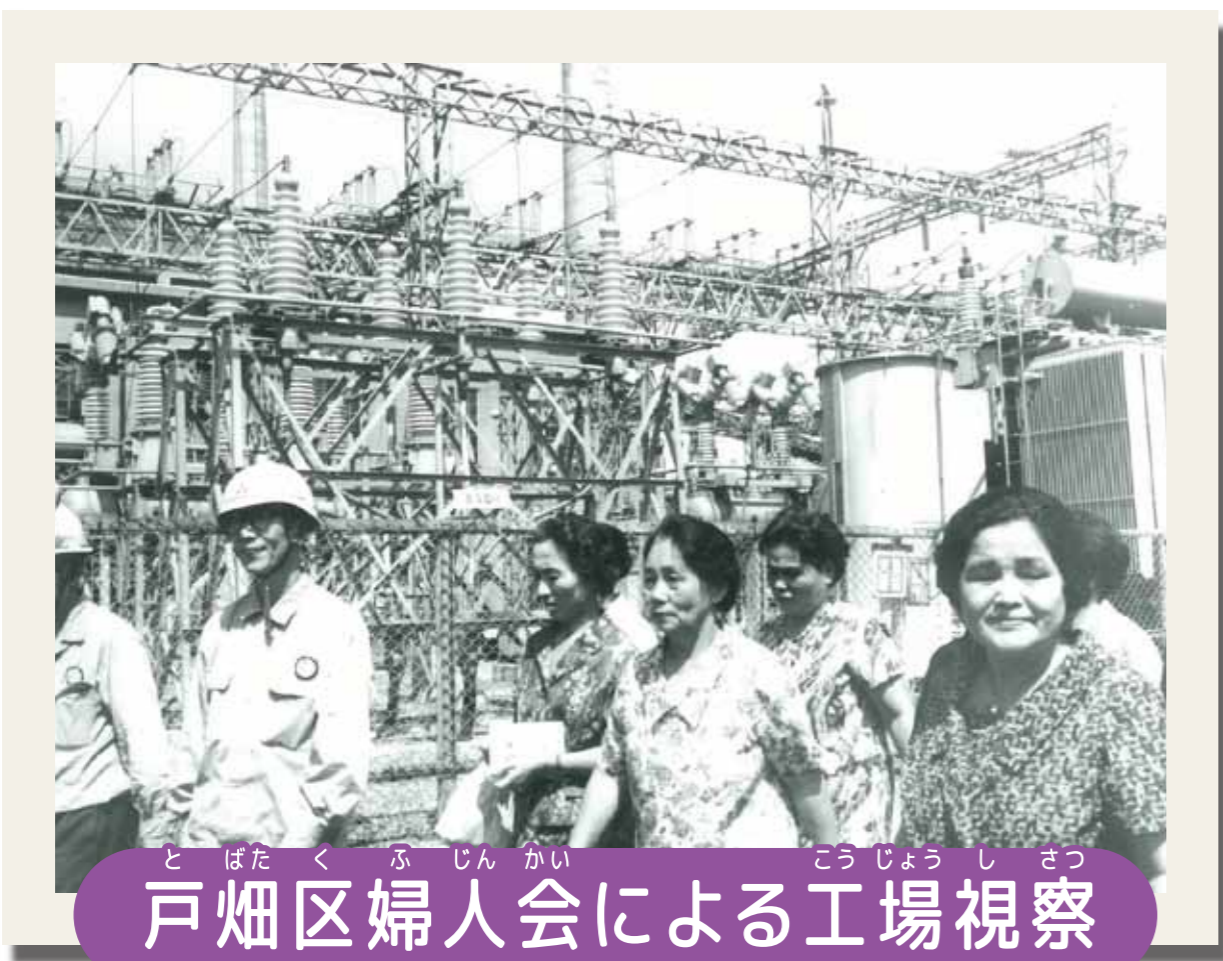
これはどこの地域の写真でしょうか？



この写真は、1960年代の北九州市の写真です。ほんの60年程前の写真です。この写真を見ると、現在(いま)との違いに驚くでしょう。

北九州地域は、1901年の官宮八幡製鉄所の創業以来、日本の四大工業地帯の一つとして発展しました。1960年代には、鉄鋼、機械、化学などの重化学工業が日本の経済をリードし、急激な経済成長を遂げました。しかし、目覚ましい発展の一方で、北九州地域の空は「七色の煙」におおわれ、洞海湾は工場排水により「死の海」と化し、かつての青い空、美しい海が失われました。

市民の奇跡。小さな一歩が公害を克服

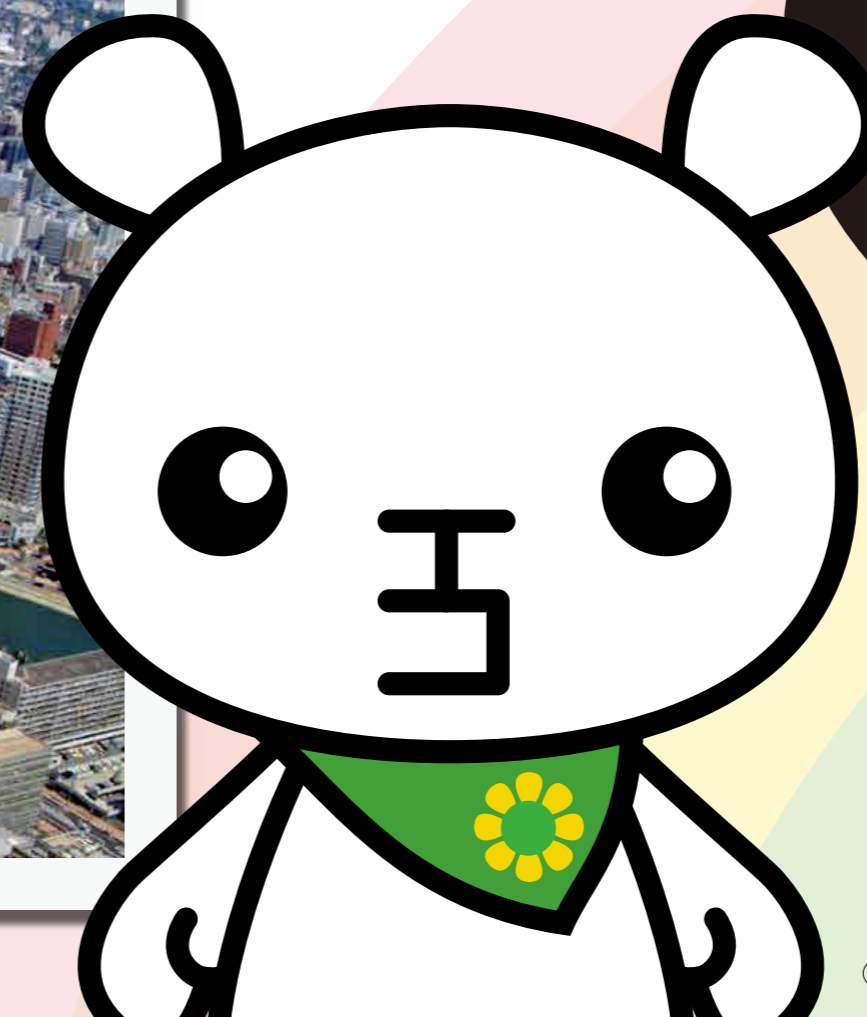


戸畑区婦人会による工場視察

多くの市民が、工場の煙によるぜんそくに苦しみ、生活環境が悪化していく中、最初に立ち上がったのは、子どもの健康を心配する母親たちでした。戸畑区の婦人会を中心に「青空がほしい」というスローガンを掲げ、自ら大気汚染の状況調査等を行って、企業や行政に改善を求めるなど、積極的な運動を起こしました。

行政は、婦人会の声を真剣に受け止め、公害対策組織を設置し、様々な取り組みを始めました。企業もまた、公害を認識し生産工程の改善に取り組みました。

市民、行政、企業が一体となって公害対策に取り組んだ結果、北九州市の環境は大きく改善しました。



みんなの力で
北九州市は「環境モデル都市」、
「環境未来都市」に選定される
ほどになったんだよ！
これからも、この街をもっと
大切にしていこうね！

©ていたん北九州市

北九州市は、環境再生を果たした『奇跡の街』として、国内外に知られるようになりました。